

令和元年（2019年）7月23日（火曜日）

渡辺専務(右)の説明に熱心に耳を傾けるネパールの中学生ら  
＝三島市の三島グラウンドワーク事務所



ネパール地震から4年

# 被災中学生4人招く

## GW三島 あすシンポ、意見交換

### 3泊し自然体験、地域交流

4年前のネパール大地震で被災した女子中学生4人がNPO法人グラウンドワーク三島（GW三島）の招きで25日までの3泊4日で三島市を訪れ、ホームステイしながら自然体験や地域交流に取り組んでいる。24日は午後6時から、中学生らも出席し、「震災後のネパールを学ぶ」と題し、シンポジウムと意見交換会を三島商工会議所で開く。一般も自由に参加できる。

GW三島は大震災の強い影響を受けている子どもたちの心を癒やそうと、山梨県の「紅富士太鼓・ネパール・日本友好協会」との協働で毎年実施。今回で4回目となる。初日の22日は、渡辺専務から源兵衛川の水辺環境の再生に取組んだGW三島の活動について話を聞いた後、源兵衛川の草刈りや生き物観察などを体験した。渡辺専務は「一人一人の力は小さくても足していくと大きくなる。頑張れば町は変わる。皆さんも知恵を

出せばネパールを再生できる」と語り、クリティ・バッタライさん（13）は「何事も持続が大事だということを学んだ。ネパールに戻ったら、学んだことを生かしたい」と感想を語った。